

平成19年（2007年）10月24日
第203回『21世紀塾』参考資料
（第22回提言）

熱海に、6000人の「コンベンションホール」を

『21世紀塾』代表世話人 小野 徹

【問題提起】

熱海の集客力の低下が、伊豆の「地盤低下」を引き起こしている。

これは、「日本一の湯のまち」
として、また、伊豆の玄関口にあ
って、伊豆の観光リーダーとして
の役割を負っている熱海の凋落が
著しいことによる。

一昔前と違って、旅行の形態が
「国内から国外へ」、「団体旅行
から家族・小グループ旅行へ」と
いった大きな潮流があるにしても、
昭和63年に年間450万人あっ
た宿泊者数が、今では300万人を割り込んでしまっ
たというのは、極めて異常だ。

地方の疲弊をよそに、熱海の一番のお客様である大
東京は、繁栄・膨張を続けていて、熱海の「東京の奥
座敷」としての地理的優位性はゆるぎない筈なのに、
どこかおかしい。

その一番の原因は、

——「日本一の
温泉観光都市」とい
いながら、それにふ
さわしい「誘客ビジ
ョン」を打ち立てて



観光都市として「もてなし」を第一に挙げる熱海市のホームページ



見事にライトアップされたサンビーチ

ファンも多い歌舞練場の「華の舞」

こなかったせいにある。

――それにふさわしい「おもてなしのインフラ整備」に努めてこなかったせいにある。

確かに、

――歌舞練場で「華の舞」も始まった。

――「冬の花火」も軌道に乗った。

――「サンビーチ」も整備され、ライトアップも始まった。

――「親水公園・ムーンテラス」も整備された。

――「起雲閣」も名物になった。

――「マリンスパあたま」という全天候型運動施設もできた。

しかし、肝心要のものが、欠けている。

それは、日本一の「国際温泉リゾート都市」を目指そうという「ビジョン」と、その具現化としての「コンベンション・ホール」だ。

平たく言えば、世界規模の大会、全国規模の大会が開ける会場・ホールの必要性が出てきていないということだ。



平成16年（2004年）10月、三島ロータリークラブがホストとなって、山梨・静岡両県の会員が集まる地区大会を開催することになって、慌てた。

三島には、1,800人を収容するホールと、引き続き行われる祝宴を開く会場がなかったのだ。

集まるだけでなく、宿泊客も多いことから、やむなく、会場を熱海に移すことにしたのだが、たったこれだけの人員を収容するホテルさえ、ほとんどなく、右往左往する羽目になった。

また、別の例で言えば、全国持ち回りで毎年10,000人規模で集まる高校PTAの全国大会が挙げられる。



美しいフォーラムのムーンテラス



熱海の新名所となった起雲閣



懸念だったマリンスパ熱海も整備された



ロータリー地区大会歓迎の海上打上花火



大会では国際色豊かな国際親善フォーラムが開催された

さすがにこれだけの規模となると、主会場とサブ会場を分けて開催しなければならない県もあるが、近頃は映像技術も向上していて、それほどの不満は聞かれない。

それにしても、高校PTAの東海地区大会でさえ1,800人規模で集まることを考えれば、「各種の大会の誘致」のためには、せめて6,000人～8,000人程度のホールは必須条件だし、もちろん国際会議まで視野に入れば、1万人収容のホールが欲しいに決まっている。

それにしても、国内には、ありとあらゆる団体があり、年がら年中、どこかで大会が開かれている。

その開催に、これまでの熱海のように、「門前払い」を食わせることなく、「これこれ、これだけのコンベンション施設を用意しています。是非、お出で下さい」と、大会主催者の期待に応えることが「おもてなし」の第一歩だし、何よりも大きな大会を誘致する「経済波及効果」は計り知れない。

ホテル・旅館も、弁当屋も、クリーニング屋も、タクシーも、みやげ物屋も、ひいては建設業も、その恩恵にあずかれる。

熱海なら、一年中温暖だし、温泉、芸者、花火、夜景と揃っていて、夜のもてなしにも不足はないし、ちょっと足を伸ばせば「水の都・三島」や、伊豆・箱根があって、見所は満載だし、伊東、伊豆長岡、修善寺、湯ヶ島と、宿泊客のキャパにも事欠かない。

◇ ◇

こう言うと、「コンベンションなら、静岡にグランシップがあるではな



高校PTAの全国大会のポスター



今年の高校PTA全国大会は埼玉アリーナで開催された



新幹線駅から離れていることが難点のグランシップ

いかと」いう人がいる。

しかし、グランシップがあるといても、東静岡で、新幹線駅である静岡駅から歩けるわけではないし、今程度の鈍行列車では、恥ずかしくて来訪者に「これに乗ってくれ」とは勧められない。

勿論、会議だけなら可能だろうが、近くに宴会場はないし、肝心の宿泊施設などどこにもないから、終ってすぐに「温泉へ」というわけにはいかない。

沼津駅北のキラメッセのところに「コンベンションホールを」という意見もある。

しかし、これは全くの無駄だ。

現在の敷地の広さからして、500人や1,000人程度収容のホールぐらいはできるだろうが、沼津の駅南には1,500人収容の市民文化センターがあるし、近くに大型のホテルもある。

また、いかに将来沼津駅が高架化して便利になるとしても、グランシップ同様、新幹線駅でないのだから、

「コンベンション」を目指すには、三島で乗り換えなければならないし、静岡ガンセンターだけが頼りの国際大会開催というのでは、心もとない。



グランシップの大ホールの内部



課題となつている沼津駅北のキラメッセの活用方法



独立行政法人都市再生機構作成の「静岡東部拠点特定再開発事業」のパンフ



熱海市は、危機的状況にある財政を立て直そうと、「財政健全化」を目指しているとのことだ。

宿泊客も、人口もガタ減りで、市としては事務的経費を切り詰めるとともに、投資的経費を極端に削減し、財政の縮小方向へと転換を図っているようだが、いくら内々の経費を減らそうと、外からの金を稼ぎ出す方策・ビジョンがないのでは、これまで一生懸命に考え、生み出し、整備してきた「宝」のもち腐れだ。

勿論、東海地震に備えての喫緊の課題である「市役所新庁舎」の建設など、バラックでしのいで、後回しにしてもいい。

しかし、いくら観光協会を先頭に、一生懸命「熱海に来てよね」とPRしても、国際会議用の「コンベンションホール」とまではいかないまでも、せめて6,000人収容のホールくらい備えてなければ、相手にされないのだ。



マレーシアに行った時、日本のことを少し知っているという現地のウェイトレスに聞いた。

「東京って知ってる？」 「知ってる」

「大阪は？」 「知ってる」

「富士山は？」 「知ってる」

「熱海は？・・・日本一の温泉観光都市なんだけどなア？」

「アタミは知らないけど、タタミなら知ってる」

「・・・・・・・・」

小泉内閣で始まった「ビジット・ジャパン」は、2010年に訪日外国人を1,000万人にする計画だ。

就任2年目を迎えた齊藤市長は十六日、藤栄熱海市長は十六日、報道各社との会見に臨み、昨年九月に初当選して約一年間を経た現在の所感と市政の課題などについて語った。今後の方針については「観光客重視から住民重視へ少しづつ転換したい。観光振興とともに人口増、企業誘致を進める」などと持論を述べた。

齊藤市長は就任後、情報公開、市民参加、行財政改革を進めたことを挙げ「改革のための基礎作りはできた」と分析。これからの方策について「より住民に恩恵があるまちづくりを進めたい」として、観光客と住民の双方に有益な歩道のバリアフリー化を重点に挙げた。また、市内への移住を促す施策や、温泉をベースにした研究機関などの誘致に取り組む考えを明らかにした。

一方、公約に掲げたが実現していない土曜の開庁や行政コンビニエンスセンター構想は、「検討を続けている」と述べるにとどまった。さらに、平成二十三年度までを区切りとする行財政改革の最中であることを強調し、「まちづくりの部分でまな目に見える成果はない。十年後に再生の到達を目指したい」と述べた。

熱海 「住民重視へ転換」

市長 就任2年目の抱負語る

就任2年目を迎えた齊藤市長は十六日、藤栄熱海市長は十六日、報道各社との会見に臨み、昨年九月に初当選して約一年間を経た現在の所感と市政の課題などについて語った。今後の方針については「観光客重視から住民重視へ少しづつ転換したい。観光振興とともに人口増、企業誘致を進める」などと持論を述べた。

齊藤市長は就任後、情報公開、市民参加、行財政改革を進めたことを挙げ「改革のための基礎作りはできた」と分析。これからの方策について「より住民に恩恵があるまちづくりを進めたい」として、観光客と住民の双方に有益な歩道のバリアフリー化を重点に挙げた。また、市内への移住を促す施策や、温泉をベースにした研究機関などの誘致に取り組む考えを明らかにした。

一方、公約に掲げたが実現していない土曜の開庁や行政コンビニエンスセンター構想は、「検討を続けている」と述べるにとどまった。さらに、平成二十三年度までを区切りとする行財政改革の最中であることを強調し、「まちづくりの部分でまな目に見える成果はない。十年後に再生の到達を目指したい」と述べた。

就任2年目を迎える会見に臨む齊藤市長
熱海市役所

平成19年(2007年)10月17日の静岡新聞朝刊掲載記事



国内外からのお客様を待ちかねている日本一の芸妓連

国際ロータリー第2620地区
2007～2008年度
地区大会のご案内

ロータリーは分ち合いの心-ROTARY SHARES
情熱と行動
実現しよう、ホスピタリティ!!

海に歴史と文化のまち
沼津へようこそ!!

大会第1日目 11月3日(土)
会場 沼津市民文化センター

大会第2日目 11月4日(日)
会場 沼津市民文化センター
キラメッセ沼津

毎年どこかで開かれるロータリーの大会

静岡空港の開設も間近になった。
――「伊豆の牽引役・熱海」の、大い
なる知恵に期待したい。



施設さえ完備すれば全国どこからでも
お客様が集まる(全国高校PTA秋田大会)